「大阪の元気！ものづくり企業」冊子掲載企業（匠企業）
大阪府では、「大阪ものづくり優良企業賞」受賞企業等、大阪府内の総合力が高く優れたものづくり中小企業を「匠企業」として位置付けている。

大阪府経営革新計画承認企業
大阪府では、中小企業者の経営革新を支援するため、中小企業等経営強化法に基づく経営革新計画の審査・承認を行っている。

4 憧れの「全部のせ」なのにスッキリ! 理想のゲーム環境を叶えるデスク。

PCゲームをプレイするとき、基本的な操作はマウスとキーボードで十分。しかし高い操作性や臨場感を求めるなら、ハンドルコントローラーやフライトスティックなどの専用デバイスが欲しくなる。これら周辺機器はフルセットだと、かなり大がかりなシステムになってしまう。これがワンタッチで切り替わるデスクがある。Willow Gearの「ARCdesk」はコントローラーモードとキーボードモードを一瞬でON/OFFできる技術で、設置・収納・置場という課題を解決するゲーミングデスク。横幅180cmでトリプルディスプレイも設置可能だ。

ゲーマーにとっての夢のようなデスクを開発した、Willowの柳原氏も周辺機器の収納や出し入れにストレスを感じていた。「私もレースゲームが好きなのでプレイするときはハンドルコントローラーを使うのですが、ほかのゲームをするときには邪魔になる。いちいち片付けるのも面倒で」。それを解消すべく、デスクにスライド台と回転パネルを設置する特許技術「アークシステム」を開発。回転パネルに多数のネジ穴があり、用途に合わせて取りつけ可能。配線やタイラップ用の穴、ヘッドホンを掛けるフックが2ヶ所とデスク周りの使い勝手も考え抜かれている。また長年愛用できるよう、天板は総耐荷重70kgという硬質なメラミン化粧板を使用。

このデスクを一躍有名にしたのは2019年9月に開催された、日本最大級のゲームの祭典「東京ゲームショウ2019」。こちらに出展し大きな反響を呼んだ。動画がTwitterにアップされ気がつけば1万リツート、

最新作の「ARCdesk slim」はアークシステム（特許技術）を採用しながら、一般的なデスク横幅90cmと省スペースで利用しやすくなっている

50人ほどだったフォロワーも1000人に急増。多くのメディアに取り上げられ、一気に知名度を上げた。同年11月には、素材と機能性はそのままにサイズをコンパクトにした「ARCdesk mini」を発表し、さらに一般向けに幅90cmの「ARCdesk slim」も今秋販売予定だ。いずれは海外進出も考えている。「海外はレースゲームの土壌があり、メインターゲットとするハンドルコントローラーのユーザーが多い。出荷台数の桁も違うので、そこを取りに行きたいなと」 続く▸

Willow 株式会社
https://willow-games.com/
守口市大久保町1-1-7　TEL. 06-7503-8608

キーボードとマウスを使用する場合は「キーボードスペース」を使用し、レーシングゲームでハンドルコントローラーを使用する場合は「アークパネル」にワンタッチで切り替え

タニタのバーチャロンシリーズ専用コントローラー「ツインスティック」は、「ARCdesk mini」の120cmデスク幅にぴったりフィット

5 走りを劇的に変える カスタムパーツで バイクの世界に革命を起こす。

ブラケットやミラースタンドなどのロボット溶接をメインとする会社が、今意外なアイテムで注目されている。コウワの二輪事業部「KOOD（クード）」が製造するクロモリアクスルシャフトだ。「バイクは趣味として好きだったが、まさか仕事になるとは思わなかった」と語る浮田和宏代表。大学卒業後はメーカーで営業を経験したのち、ものづくりの世界へ。金属加工を手がける家業を継いだのは25年ほど前のことで、当時は100％下請けで得意先もない家族経営。浮田氏は独学で溶接やNC旋盤の技術を身につけていく。ある日、バイク仲間がアクスルシャフトをつくらないかと声をかけてくれた。前後のタイヤとサスペンションを繋ぎ、大きな負荷がかかり、操縦安定性において非常に重要なパーツでありながら、カスタムが発達したバイクの世界でも、レース以外でアクスルシャフトを交換部品と考える文化は今まで無かった。「一般のライダーは交換せず乗り続けます。理由はカスタムパーツとしては地味で、交換した時の効果を知らないからだ」。カスタムはどうしても目立つパーツに偏るのだという。

強度と粘りを兼ね備えるクロモリ鋼の特性を最大限に引き出す。「純正品はパイプを加工したものですが、当社のシャフトは熱処理を加えたクロモリ鋼を無垢の状態から削り出します」。さらに手間のかかるマシ

鈴鹿8時間耐久レースでは0.1秒を争うタイヤ交換を素早くスムーズに行うため、アクスルシャフトの精度と耐久性・耐摩耗性・平滑性などが大きく貢献する

ニング加工やセンターレス研磨、3層ものメッキ加工によって高い精度とクオリティを実現した。「自分が乗ったときには安定した乗り心地を体感しましたが、プロのライダーに使ってもらうとタイムまで速くなることが分かりました」評判は口コミで広がり、「KOOD」はカスタム市場では名のしれた存在となっていく。最近ではイタリアの強豪チームをはじめ、ヨーロッパや東南アジアなど海外からの引き合いも増えている。じつはアクスルシャフトを交換する文化がないのは海外でも同じ。だからこそ一度変えれば、その乗り心地のよさに夢中になってもらえる。「どんなライダーでも違いが分かるから、ぜひ体感して欲しい」と大手量販店の店頭でイベントも開催。今まで注目されなかったアクスルシャフトに光を当て、その裾野を広げていく。 続く▸

コウワ二輪事業部 KOOD（クード）
http://kouwa-kood.jp/
松原市大堀5-4-5
TEL. 072-289-6407

素材選びから製造まで日本製にこだわり、高品質かつ高性能なカスタムパーツ「KOOD」。ロングランでの疲労の少なさ、快適性の向上に驚かされる

世界最高峰「motoGP」のテストライダーでもある津田拓也選手など、国際A級ライダーたちが開発に参加。レースの限界値での経験を、製品にフィードバックする

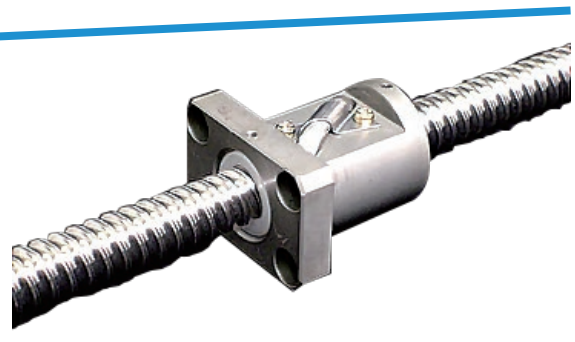
6 新たな環境でネットワークを構築。 この地でマグネシウムの 可能性に賭ける。

工場を移転するということは大きな決断だ。金属加工の冨士精機も2021年5月に創業の地を離れ、現在の場所で新たなスタートを切った。数年前には廃業も考えていた田村孝代表取締役社長の心を動かしたのは人との出会い。MOBIOから向陽エンジニアリング株式会社の山下社長を紹介された。同社は独自技術を活用した機構パーツの製品開発をおこなう企業。相談を受けた案件への迅速な対応や技術力に感激した山下氏から、自社ビルへの移転を提案された。仕事を通じて山下氏を「凄いエンジニアだ」と感じていた田村氏は快諾する。「“一緒に働きたい”という言葉も嬉しかった。それと当社の社員は若く、今後20年25年と続けるには新しい挑戦が必要ですから」「ものづくりを川にたとえると、設計やデザインが上流で、中流はそれに加工を施して形にする。うちはここ。さらに下流は熱処理や研磨して最終製品にするところ。今後は上流から下流まで一気通貫できる企業しか生き残れない。移転したのは山下さんとのネットワークでそれが可能だから」。その頃、事業再構築補助金を知り申請、採択される。そこに書かれたのは同社が得意とするマグネシム加工だ。マグネシウムは軽い金属の代表であるアルミよりも軽い金属。「振動吸収性に優れ、放熱性が良い、比強度が高い、

優れた振動吸収性からオーディオで振動の伝わりを抑えるインシュレーター（上）。総削り出し成形に、耐食性の高い表面処理を施したスバルターボ車用オイルフィラーキャップ（右）

電磁波シールド性が高い、耐くぼみ性が良い、切削性に優れる」とメリット上げればきりがない。しかも原材料は海中に無尽蔵にある。ではなぜ普及しないのか。課題とされるのは安全性。それも「管理をきちんとすれば問題ない」と語り、社員には徹底した教育もおこなっている。同社では地下鉄の可動式ホーム柵を制御する機構や製造現場で使う工作機械、オーディオで振動の伝わりを抑えるインシュレーターなどにマグネシウムを使用した製品を開発。量産品としてマグネシウムが使われることはまだ少ないが、田村氏には自信がある。「素材のよさを理解してもらえれば、マグネシウムを使った部品の需用は高まる」。今後は認知度を上げながら取引先を開拓し売上を増やしていく。 続く▸

株式会社冨士精機
http://www.fujiseiki-mg.com/
堺市堺区錦綾町1-8-19
TEL 072-276-4542



工作機械ではパイプの中を入ったマグネシウム製のボールが回転し、1/1000mmの精度で位置決めの役割を担っている。ピッチ5mmの場合1回転で5mm移動する

2005年頃から活動を開始した「フィールド・コア平野」はキャリア支援事業。地域の高校生たちにものづくりの楽しさを伝え続けている